

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・教育相談と特別支援教育の充実を図るために生徒支援委員会を立ち上げ、専門機関との連携のもと不登校等の早期発見、早期対応を行い、様々な対応を個別に行った。また、スクリーニング会議を行い、生徒の変容を全職員で共有し、生徒が抱える課題への早期対応の行い方を学び、実践につなげることができた。さらに人権学習を通してLGBTsについて学んだり、コロナ禍の中でいじめなどに気付き、社会の中で生きるための「人間力」について考えを深めさせたりすることができた。</p> <p>・学習面では「わかる授業、手ごたえのある授業」を目指して「R80」を活用した授業の振り返りや有明抄を活用した視写活動を行った。また、教職員の指導力の向上のため、提案授業を年10回実施、県学習状況調査やSAGAテストへの事前取り組み、事後の結果を分析し、課題を探り授業改善に努めた。</p> <p>・時間外勤務の縮減については、計画的な行事の準備や副担任にかかる負担を分担するなど改善する必要がある。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	夢実現に挑戦し、努力する生徒の育成
----------	-------------------

3 本年度の重点目標	<p>(1) 不登校対策及び特別支援教育の充実</p> <p>(2) 学力向上</p> <p>(3) 人権・同和教育の推進</p> <p>(4) 教職員の時間外勤務の縮減</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの成果指標について「とても達成」「おおむね達成」と答えた教師は68%であった。	B	・マイプランの成果指標について「とても達成」「おおむね達成」と答えた教師は64%であった。校内研修にてマイプランの共有を行い、継続して推進を図った。
	○基礎的・基本的内容の確実な定着を目指した指導方法の改善と家庭学習の定着 ○「わかる授業」の実践 ○授業で「めあて」「振り返り」を実施し、学習内容の定着を図る ○ICT機器の活用	○定期テストの平均点70点以上。 ○新学習指導要領に沿って学習評価の在り方を学び、授業改善を行う。生徒の授業評価アンケートで、授業が分かると思えた生徒80%以上。 ○「めあて」「見通し」「振り返り」の授業での実施率80%以上。 ○タブレットPCを用いた提案授業を3回以上行う。	・県学習状況調査の結果を分析し、課題把握と課題解決に向けた取組を行う。 ・定期テストで授業の理解度を見られるように授業の在り方の研究を行う。 ・各教科の「めあて」「振り返り」の実施状況を職員間で共有する。 ・タブレットPCなどICT機器の積極的な有効活用について研修を行う。	A	・9月に校内研究会を開き、全国調査や県調査の結果をもとに生徒の傾向や課題を話し合った。出題傾向を分析し、授業での取り組み等を決めた。 ・授業での「めあて」「見通し」「振り返り」の実施は定着している。「振り返り」でのR80の活用も浸透している。 ・ICT利活用の研修会を、5月に2回開催した。SkyMenu、Microsoft Forms、ミライシード等の活用方法を学んだ。提案授業ではタブレットPCを用いた授業を3回実施できた。	A	・定期テストでは各学年2~3つ教科が平均点70点以上であった。到達までと少しの教科も複数あった。 ・年間で10人の先生が提案授業を行うことができた。前サボ、後サボを実施し、より良い授業の在り方について研究を進めた。12月の校内研修で学習評価のあり方を協議し、評価について研鑽を深めた。授業が分かると答えた生徒が80%を超えていた。 ・授業で「めあて」「振り返り」を行っている教員は100%であった。 ・タブレットPCを用いた提案授業を6回行った。また、校内研修でタブレットPCの活用方法を協議した。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ○人権・同和教育の推進	○道徳の授業の振り返りにおいて、新しい価値を見出したり、自身の内面や考えの変化に気付いたりすることができた生徒80%以上を目指す。(道徳の各授業で) ○人権講演会や人権集会を開催し、その後の生徒へのアンケートで、考え方が深まった生徒80%以上を目指す。	・道徳科の授業づくりに関する校内研修の実施(講師を招聘) ・「ふれあい道徳」の授業を保護者等に周知し、道徳の授業への理解を深めてもらい、家庭・地域での教育力の向上につなげる。 ・道徳・学活との連携授業(人権・同和教育)	B	・命の教育や人権・同和教育、社会科の部落問題学習の授業と関連した道徳の授業を実施することができた。 ・コロナ禍であったため、「ふれあい道徳」は中止となった。今後、講師を招聘した研修を実施したいと考えている。 ・各教科で人権意識に配慮した授業展開を行っている。特に社会科で部落問題学習を扱う際は、正しく認識できるように、各学年・担任と相互参観を行い、道徳とタイアップして実践した。夏休みには全校生徒をあげて人権作文に取り組みさせた。	A	・12月の人権週間際に、「人権集会実行委員会」を募り、①人権標語の募集・入選作品の紹介及びポスターの掲示②人権ソングの募集・人権ソングシャワー(放送)、③人権作文コンテストの入賞作品を人権集会実行委員が朗読し、感想記入④人権集会では、外国人講師を招聘し、異文化共生理解をテーマに多様性の涵養を図ることで、人権意識を高め、行動の変容を図ることができた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ●不登校、不登校傾向への支援 ○切れ目のない組織的な支援	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員100%、生徒の満足度100%を目指す。 ●QUの要支援群の生徒の割合を5%以下にする。 ●生徒支援委員会(教育相談部会+特別支援教育部会)を毎週1回実施する。 ●登校復帰率100%を目指す。 ○SC、SSW及びび町とのネットワーク連絡会をもち、計画的支援を実施する。 ○個人カルテを作成し、全職員で共通理解を図る。	・定期の生活アンケート、教育相談の実施方法(レポートの取り方)を工夫改善し、生徒の満足度(悩みの解決)につなげる。 ・QUの結果をもとに、個別の支援を行い、学級満足群のポイントを上げる。	A	・生活アンケートを毎月行い、いじめの早期発見に努めた。管理職、生徒指導主事を中心に情報の共有を図り、対応の助言を行うことができた。 ・QUの結果をもとに、スクリーニング会議で生徒ひとり一人の生活状況を学年団で共有し、今後の支援体制を確認することができた。 ・不登校及び不登校傾向の生徒に対しては、十分ではないものの各学年で臨場的に指導している。	A	・毎月生活アンケートを行い、いじめの早期発見・対処ができており、学年間で連携が取れた指導ができた。いじめを早期発見したり、発見したら学年等で情報を共有したりして、適切に対応していると回答した教員は95%で、目標の100%には届かなかった。 ・不登校生徒に対する支援は、職員だけでなく、SCやSSWと連携しながら柔軟に対応することができた。 ・登校復帰率100%は達成できなかったが、登校日数が増えた生徒が若干名いた。 ・生徒支援委員会を毎週実施し、SCやSSWからの助言をもらったり、関係機関を紹介していただき早めに対応できた。
	◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒90%以上 ○生徒会活動の活性化を行い、生徒の様々な行事での満足度を80%以上 ○特別支援教育における職員、保護者の充実度70%以上	・生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・各種体験活動では、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・「グリーンカード制度」を継続し、生徒の日常の良い活動に対して教師がコメントして掲示し、称賛・承認する。 ・生徒が主体的に活動する学級活動や人権週間の活動を計画・実施する。 ・小中連携や他の教育機関との連携を密にし特別支援教育の充実を図る。	B	・SDGsの17のゴールに関する理解を深めるため、集会時にパワーポイントを使った説明を行ったり、各学年でSDGsについての調べ学習を課題シートを使って行ったりした。3年生は修学旅行時に環境保全の取組として東よか干潟の清掃活動を行った。 ・医療機関や特別支援学校等と連絡を取り、巡回相談でアドバイスを受け、支援方法や対応に活用するように努力している。職員への研修も行っているが充実度への調査は未定。 ・小中の連携については、今後オンライン交流等で連携を取る予定。	A	・将来に向かって夢の実現に挑戦し努力を行うことについて、84%の生徒が肯定的な回答をした。 ・学校行事や生徒会活動、奉仕活動への積極的な参加について、85%の生徒が肯定的な回答をした。グリーンカード制度によって生徒を称賛・承認する習慣が定着している。生徒会が自主的に企画し、ボランティアによる除草活動が3回行われた。 ・特別支援教育の充実について肯定的に回答した職員は95%、保護者は68%であった。SCやSSWはもちろん、専門機関や医療機関との連携を充実させることで、個々の生徒へきめ細やかな支援を行った。

●健康・体づくり	○「望ましい生活習慣の形成」 ●感染症予防対策	○「起きる時間、寝る時間、学習時間」(三点固定)の取り組み率80%以上 ●ライフトオル準備率100%	・規律正しい生活習慣を身につけさせ、ゲーム依存やLINE中毒などに陥らないように、「ネットワーク5原則」を遵守させ、規範意識を高める。 ・朝、タオルを水に濡らし、湿度を保たせる。	B	・生徒会や生徒指導主事より、「ネットワーク5原則」について、学年初めに啓発することができた。 ・新しい生活様式(コロナ対策)に対する、基本的な衛生観念はほぼ定着した。	A	・感染症対策としてのライフトオル、検温、給食時の黙食など徹底して継続することができた。3密に関しては改善の工夫について課題が残った。 ・ネットワークの利用の仕方について指導し、正しい生活習慣で生活を送れるよう指導を継続して行うことができた。
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食をとって登校した生徒90%以上 ○給食の残食率を昨年度より削減。	・食の大切さを生徒の活動を通して学習できるように教材を共有し、学校全体で食育や健康増進に努める。	B	・学級活動や生徒会保健部の活動などを通して、給食の残菜が減少しつつある。 ・PTA主催の「食育講座」を実施し、生徒の「食」に関する関心が高まった。 ・朝食の喫食率を高めるのが課題である。	A	・毎日の給食指導や学活、家庭科の授業などの学習指導などで、生徒の「食」に関する関心が高まった。 ・給食の残食が大変少なくなった。 ・朝食の喫食率が96.4%に高まった。
●業務改善 教職員の働き方 改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限を遵守する。(生徒の完全下校後1時間以内)	・タイムマネジメントの意識化(出勤は7:30以降等) ・勤務時間以降、出張後は帰宅する ・定時退勤日の遵守	C	・全職員の時間外勤務時間の平均59時間 ・定時退勤日に時間通り退勤できていることは少なかった。	B	・定時退勤日に意識して退勤できている職員が増えた。また、平日の時間外勤務は、ほとんどの職員が減った。
	○適切な部活動の在り方についての研修と実践	○部活動の組織的な取り組み度を、2回の調査結果と比較、向上させる。	・複数顧問体制の中で、交代して指導をしたり、役割を分担して、負担の軽減につなげたり、部活動の運用を適切に行うように努める。	B	・部活動では、週休2日で土日のどちらかを休養日に設定し、大会等で休養がとれなかった場合には、休養日を平日に振り返ることができた。	B	・月あたりの休養日が少ない部活動があったため、長期休業中の活動やテスト休み期間の見直しを行った。また、1日の活動時間を制限し、教師、生徒両方の負担減に努めた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
○開かれた学校づくり	○学校HPIによる学校情報の公開	○学校HPIによる学校情報の満足度70%以上	・学校HPの定期的な更新	B	・学校からのお知らせや学校だよりについては、HPIに掲載することができた。	A	・学校からのお知らせを、はなまるで適宜連絡をすることができた。また、学校だよりやお知らせをHPで知らせることができた。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>○総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校目標「夢実現に挑戦し、努力する生徒の育成」の目標達成に向けて、コロナ禍の中であったが様々な行事の工夫や授業時間を確保し生徒の夢実現のための支援に取り組んだ。 ・毎週、生徒支援委員会を行い、月1回不登校等支援ネットワーク会議を開くことにより、不登校等の早期発見と早期対応を行い、様々な対策を個別に行ってきた。スクリーニング会議を行い生徒の変容を全職員で共有し、生徒が抱える課題への早期対応につなげることができた。 ・学習面では「わかる授業」を目指してR80を活用した授業の振り返りや、教職員の指導力の向上のため提案授業を年10回実施した。前サポ、後サポを実施し、より良い授業の在り方について研究を進めた。また、12月の校内研修で学習評価のあり方を協議し、評価について研鑽を深めた。 ・時間外勤務の縮減について、「出勤は7:30以降」についてはほぼ達成できた。また、定時退勤日に意識して退勤できている職員が増えた。平日の時間外勤務は、ほとんどの職員が減った。今後は計画的な行事の準備、分掌事務等個々にかかる負担を分担するなど改善する必要がある。 <p>○次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策については、毎週実施している生徒支援委員会、「不登校等支援ネットワーク会議」において、継続的に情報交換を行い、外部機関との連携がスムーズにできている。次年度も、SCやSSW、外部機関との連携をとりながら支援の充実を図りたい。 ・学力の向上に向けて、全教科で「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえた授業改善とタブレット活用の充実を図りたい。
--------------------	--